

☆教科書P28、29をもとに学習を進めていきましょう。

☆プリント一枚30〜40分位を目安に取り組みましょう。

☆プリントに取り組み前に、一回物語を音読しましょう。

このプリントで取り組むめあて

亮太（中心人物）のしんじょうを読み取ろう。

音読：読んだら○

2 考えよう

(1) この物語は五つの場面に分かれています。亮太のしんじょうが分かる表現を教科書から見つけ、そのときの亮太のしんじょうを考えましょう。

②一平や駿と遊ぶ場面 p 16L6～ p 20	①亮太が一平や駿に会いに行く場面 p 13～ p 16L4		・タタン、タタン、タタン。電車は軽やかなリズムでゆれている。		・一か月ぶりに友達に会えるうれしさで、電車の音に合わせて、気持ち明るくはずんでいる。
			亮太のしんじょう		

○亮太のひょうじょうや態度、仕草、会話やつぶやきに注目しよう。  
○風景を表している表現にも、亮太のしんじょうが現れているところがあります（じょうけい）。探してみよう。  
○ p30の「言葉」、p31の「ここが大事」も参考にしてみよう。

○見本のように書いてもよいし、亮太になりきったように、ふきだして気持ちを書いてもよいです。

⑤女の子に会ってから後の場面 p 22 L 11～ p 27	④帰りの電車の場面 p 21 L 13～ p 22 L 9	③帰る時間になった場面 p 21～ p 21 L 11	
			しんじょうを表す表現
			亮太のしんじょう

(2) 亮太の考え方が一番大きく変わったのは①～⑤のどの場面だと思いますか。そう思った理由も説明しましょう。